



ストレージVM管理

Cloud Volumes ONTAP

NetApp
February 13, 2026

目次

ストレージVM管理	1
Cloud Volumes ONTAPのストレージVMを管理する	1
サポートされるストレージVMの数	1
複数のストレージVMを操作する	1
デフォルトのストレージVMの名前を変更する	2
AWS でCloud Volumes ONTAPのデータサービス ストレージ VM を管理する	2
サポートされるストレージVMの数	2
構成の制限を確認する	2
AWSでIPアドレスを割り当てる	3
単一ノードシステム上にストレージVMを作成する	4
単一のAZ内のHAペアにストレージVMを作成する	5
複数のAZのHAペアにストレージVMを作成する	7
Azure でCloud Volumes ONTAPのデータサービス ストレージ VM を管理する	10
サポートされるストレージVMの数	11
ストレージVMを作成する	11
シングルノードシステムとHAペア上のストレージVMを管理する	12
Google Cloud でCloud Volumes ONTAPのデータ提供ストレージ VM を管理する	13
サポートされるストレージVMの数	13
ストレージVMを作成する	14
ストレージVMの管理	15
Cloud Volumes ONTAPのストレージ VM 災害復旧を設定する	16

ストレージVM管理

Cloud Volumes ONTAPのストレージVMを管理する

ストレージ VM は、ONTAP内で実行され、クライアントにストレージおよびデータ サービスを提供する仮想マシンです。以前は「SVM」または「Vserver」と呼んでいました。Cloud Volumes ONTAPはデフォルトで1つのストレージ VM で構成されていますが、一部の構成では追加のストレージ VM がサポートされます。

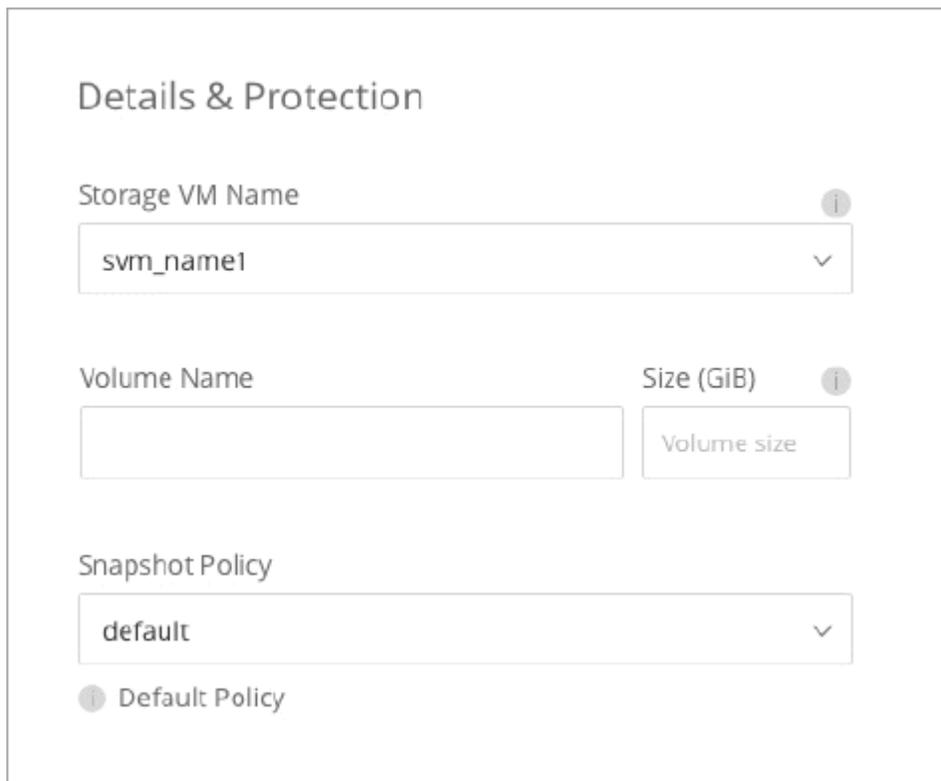
サポートされるストレージVMの数

特定の構成では複数のストレージ VM がサポートされます。に行く ["Cloud Volumes ONTAPリリースノート"](#) お使いのCloud Volumes ONTAPのバージョンでサポートされているストレージ VM の数を確認します。

複数のストレージVMを操作する

NetApp Consoleは、ONTAP System Manager またはONTAP CLI から作成した追加のストレージ VM をサポートします。

たとえば、次の図は、ボリュームを作成するときにストレージ VM を選択する方法を示しています。



Details & Protection

Storage VM Name ?

svm_name1 ▼

Volume Name ? Size (GiB) ?

Snapshot Policy

default ▼

? Default Policy

次の図は、ボリュームを別のシステムに複製するときにストレージ VM を選択する方法を示しています。

Destination Volume Name
volume_copy

Destination Storage VM Name
svm_name1

Destination Aggregate
Automatically select the best aggregate

デフォルトのストレージVMの名前を変更する

コンソールは、Cloud Volumes ONTAP用に作成する単一のストレージ VM に自動的に名前を付けます。厳密な命名規則がある場合は、ONTAP System Manager、ONTAP CLI、または API からストレージ VM の名前を変更できます。たとえば、名前をONTAPクラスターのストレージ VM の名前と一致させたい場合があります。

AWS でCloud Volumes ONTAPのデータサービス ストレージ VM を管理する

ストレージ VM は、ONTAP内で実行され、クライアントにストレージおよびデータ サービスを提供する仮想マシンです。以前は「SVM」または「Vserver」と呼んでいました。Cloud Volumes ONTAPはデフォルトで1つのストレージ VM で構成されていますが、一部の構成では追加のストレージ VM がサポートされます。

追加のデータ提供ストレージ VM を作成するには、AWS で IP アドレスを割り当て、Cloud Volumes ONTAP 構成に基づいてONTAPコマンドを実行する必要があります。

サポートされるストレージVMの数

9.7 リリース以降、特定のCloud Volumes ONTAP構成では複数のストレージ VM がサポートされます。に行く ["Cloud Volumes ONTAPリリースノート"](#) お使いのCloud Volumes ONTAPのバージョンでサポートされているストレージ VM の数を確認します。

その他のすべてのCloud Volumes ONTAP構成では、1つのデータ提供ストレージ VM と、災害復旧に使用される1つの宛先ストレージ VM がサポートされます。ソースストレージ VM に障害が発生した場合、データアクセス用に宛先ストレージ VM をアクティブ化できます。

構成の制限を確認する

各 EC2 インスタンスは、ネットワーク インターフェイスごとに最大数のプライベート IPv4 アドレスをサポ

ートします。新しいストレージ VM に AWS で IP アドレスを割り当てる前に、制限を確認する必要があります。

手順

1. 行く "[Cloud Volumes ONTAPリリースノートのストレージ制限セクション](#)"。
2. インスタンス タイプごとのインターフェースあたりの IP アドレスの最大数を特定します。
3. この番号は、次のセクションで AWS で IP アドレスを割り当てるときに必要なになるので、メモしておいてください。

AWSでIPアドレスを割り当てる

新しいストレージ VM の LIF を作成する前に、AWS のポート e0a にプライベート IPv4 アドレスを割り当てる必要があります。

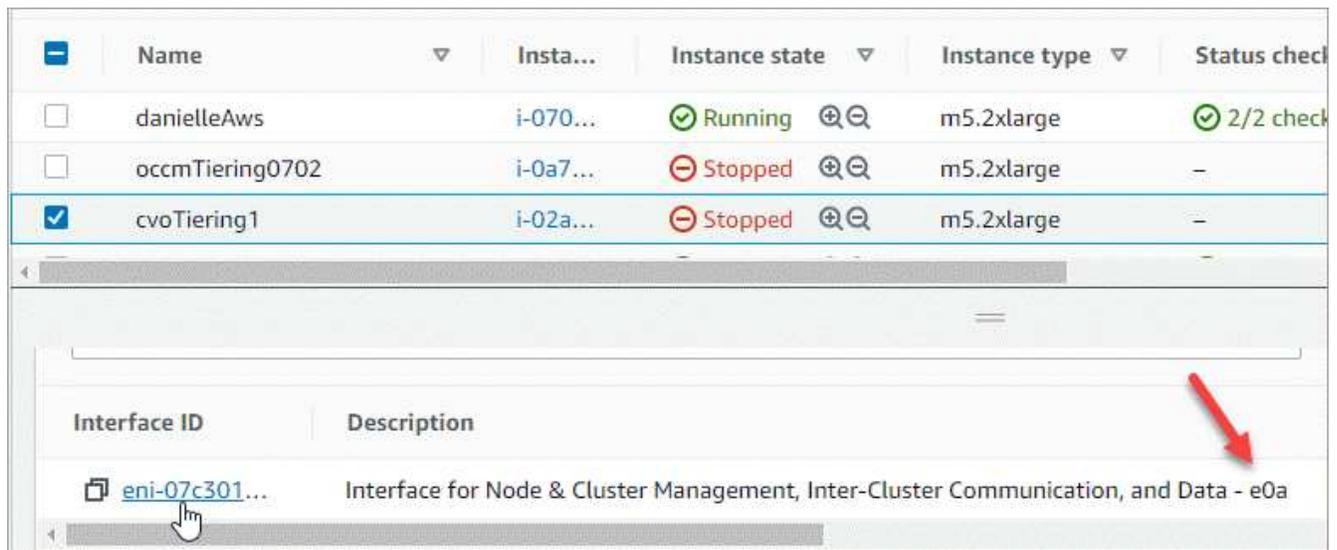
ストレージVMのオプションの管理LIFには、単一ノードシステムおよび単一AZ内のHAペア上のプライベートIPアドレスが必要であることに注意してください。この管理LIFは、SnapCenterなどの管理ツールへの接続を提供します。

手順

1. AWS にログインし、EC2 サービスを開きます。
2. Cloud Volumes ONTAPインスタンスを選択し、**[Networking]** をクリックします。

HA ペアでストレージ VM を作成する場合は、ノード 1 を選択します。

3. ネットワーク インターフェース まで下にスクロールし、ポート e0a の インターフェース ID をクリックします。



4. ネットワーク インターフェースを選択し、**[アクション]** > **[IP アドレスの管理]** をクリックします。
5. e0a の IP アドレスのリストを展開します。
6. IP アドレスを確認します。
 - a. 割り当てられた IP アドレスの数を数えて、ポートに追加の IP を割り当てる余裕があることを確認します。

このページの前のセクションで、インターフェースごとにサポートされる IP アドレスの最大数を特定しておく必要があります。

- b. オプション: Cloud Volumes ONTAPのONTAP CLI に移動し、**network interface show** を実行して、これらの各 IP アドレスが使用中であることを確認します。

IP アドレスが使用されていない場合は、新しいストレージ VM で使用できます。

7. AWS コンソールに戻り、[新しい IP アドレスの割り当て] をクリックして、新しいストレージ VM に必要な量に基づいて追加の IP アドレスを割り当てます。

- 単一ノード システム: 未使用のセカンダリ プライベート IP が 1 つ必要です。

ストレージ VM 上に管理 LIF を作成する場合は、オプションのセカンダリ プライベート IP が必要です。

- 単一 AZ 内の HA ペア: ノード 1 に未使用のセカンダリ プライベート IP が 1 つ必要です。

ストレージ VM 上に管理 LIF を作成する場合は、オプションのセカンダリ プライベート IP が必要です。

- 複数の AZ の HA ペア: 各ノードに未使用のセカンダリ プライベート IP が 1 つ必要です。

8. 単一の AZ 内の HA ペアで IP アドレスを割り当てる場合は、セカンダリプライベート **IPv4** アドレスの再割り当てを許可する を有効にします。

9. *保存*をクリックします。

10. 複数の AZ に HA ペアがある場合は、ノード 2 に対してこれらの手順を繰り返す必要があります。

単一ノードシステム上にストレージVMを作成する

次の手順では、単一ノード システムに新しいストレージVMを作成します。NAS LIFを作成するには1つのプライベートIPアドレスが必要であり、管理LIFを作成する場合は、オプションで別のプライベートIPアドレスが必要になります。

手順

1. ストレージ VM とストレージ VM へのルートを作成します。

```
vserver create -rootvolume-security-style unix -rootvolume root_svm_2  
-snapshot-policy default -vserver svm_2 -aggregate aggr1
```

```
network route create -destination 0.0.0.0/0 -vserver svm_2 -gateway  
subnet_gateway
```

2. NAS LIF を作成します。

```
network interface create -auto-revert true -vserver svm_2 -service
-policy default-data-files -home-port e0a -address private_ip_x -netmask
node1Mask -lif ip_nas_2 -home-node cvo-node
```

ここで、*private_ip_x* は e0a 上の未使用のセカンダリ プライベート IP です。

3. オプション: ストレージ VM 管理 LIF を作成します。

```
network interface create -auto-revert true -vserver svm_2 -service
-policy default-management -home-port e0a -address private_ip_y -netmask
node1Mask -lif ip_svm_mgmt_2 -home-node cvo-node
```

ここで、*private_ip_y* は e0a 上の別の未使用のセカンダリ プライベート IP です。

4. 1 つ以上のアグリゲートをストレージ VM に割り当てます。

```
vserver add-aggregates -vserver svm_2 -aggregates aggr1,aggr2
```

ストレージ VM にボリュームを作成する前に、新しいストレージ VM が少なくとも 1 つのアグリゲートにアクセスする必要があるため、この手順は必須です。

単一の AZ 内の HA ペアにストレージ VM を作成する

これらの手順では、単一の AZ 内の HA ペアに新しいストレージ VM を作成します。NAS LIF を作成するには 1 つのプライベート IP アドレスが必要であり、管理 LIF を作成する場合は、オプションで別のプライベート IP アドレスが必要になります。

これらの LIF は両方ともノード 1 に割り当てられます。障害が発生した場合、プライベート IP アドレスはノード間で移動できます。

手順

1. ストレージ VM とストレージ VM へのルートを作成します。

```
vserver create -rootvolume-security-style unix -rootvolume root_svm_2
-snapshot-policy default -vserver svm_2 -aggregate aggr1
```

```
network route create -destination 0.0.0.0/0 -vserver svm_2 -gateway
subnet_gateway
```

2. ノード 1 に NAS LIF を作成します。

```
network interface create -auto-revert true -vserver svm_2 -service
-policy default-data-files -home-port e0a -address private_ip_x -netmask
node1Mask -lif ip_nas_2 -home-node cvo-node1
```

ここで、*private_ip_x* は cvo-node1 の e0a 上の未使用のセカンダリ プライベート IP です。サービス ポリシー default-data-files では IP がパートナー ノードに移行できることが示されているため、テイクオーバーの際にこの IP アドレスは cvo-node2 の e0a に再配置できます。

3. オプション: ノード 1 にストレージ VM 管理 LIF を作成します。

```
network interface create -auto-revert true -vserver svm_2 -service
-policy default-management -home-port e0a -address private_ip_y -netmask
node1Mask -lif ip_svm_mgmt_2 -home-node cvo-node1
```

ここで、*private_ip_y* は e0a 上の別の未使用のセカンダリ プライベート IP です。

4. 1 つ以上のアグリゲートをストレージ VM に割り当てます。

```
vserver add-aggregates -vserver svm_2 -aggregates aggr1,aggr2
```

ストレージ VM にボリュームを作成する前に、新しいストレージ VM が少なくとも 1 つのアグリゲートにアクセスする必要があるため、この手順は必須です。

5. Cloud Volumes ONTAP 9.11.1 以降を実行している場合は、ストレージ VM のネットワーク サービス ポリシーを変更します。

Cloud Volumes ONTAP がアウトバウンド管理接続に iSCSI LIF を使用できるようにするため、サービスを変更する必要があります。

```

network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service data-fpolicy-client
network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service management-ad-client
network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service management-dns-client
network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service management-ldap-client
network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service management-nis-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service data-fpolicy-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service management-ad-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service management-dns-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service management-ldap-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service management-nis-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service data-fpolicy-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service management-ad-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service management-dns-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service management-ldap-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service management-nis-client

```

複数の AZ の HA ペアにストレージ VM を作成する

これらの手順では、複数の AZ の HA ペアに新しいストレージ VM を作成します。

フローティング IP アドレスは NAS LIF には必須ですが、管理 LIF にはオプションです。これらのフローティング IP アドレスでは、AWS でプライベート IP を割り当てる必要はありません。代わりに、フローティング IP は、同じ VPC 内の特定のノードの ENI を指すように AWS ルートテーブルで自動的に構成されます。

フローティング IP を ONTAP で動作させるには、各ノード上のすべてのストレージ VM にプライベート IP アドレスを設定する必要があります。これは、iSCSI LIF がノード 1 とノード 2 に作成される以下の手順に反映されています。

手順

1. ストレージ VM とストレージ VM へのルートを作成します。

```
vserver create -rootvolume-security-style unix -rootvolume root_svm_2
-snapshot-policy default -vserver svm_2 -aggregate aggr1
```

```
network route create -destination 0.0.0.0/0 -vserver svm_2 -gateway
subnet_gateway
```

2. ノード 1 に NAS LIF を作成します。

```
network interface create -auto-revert true -vserver svm_2 -service
-policy default-data-files -home-port e0a -address floating_ip -netmask
node1Mask -lif ip_nas_floating_2 -home-node cvo-node1
```

- フローティング IP アドレスは、HA 構成を展開する AWS リージョン内のすべての VPC の CIDR ブロックの外側にある必要があります。192.168.209.27 はフローティング IP アドレスの例です。["フローティング IP アドレスの選択について詳しくはこちら"](#)。
- `-service-policy default-data-files`IP` がパートナー ノードに移行できることを示します。

3. オプション: ノード 1 にストレージ VM 管理 LIF を作成します。

```
network interface create -auto-revert true -vserver svm_2 -service
-policy default-management -home-port e0a -address floating_ip -netmask
node1Mask -lif ip_svm_mgmt_2 -home-node cvo-node1
```

4. ノード 1 に iSCSI LIF を作成します。

```
network interface create -vserver svm_2 -service-policy default-data-
blocks -home-port e0a -address private_ip -netmask node1Mask -lif
ip_node1_iscsi_2 -home-node cvo-node1
```

- この iSCSI LIF は、ストレージ VM 内のフローティング IP の LIF 移行をサポートするために必要です。iSCSI LIF である必要はありませんが、ノード間で移行するように構成することはできません。
- `-service-policy default-data-block`IP` アドレスがノード間で移行されないことを示します。
- `private_ip` は、`cvo_node1` の `eth0 (e0a)` 上の未使用のセカンダリプライベート IP アドレスです。

5. ノード 2 に iSCSI LIF を作成します。

```
network interface create -vserver svm_2 -service-policy default-data-
blocks -home-port e0a -address private_ip -netmaskNode2Mask -lif
ip_node2_iscsi_2 -home-node cvo-node2
```

- この iSCSI LIF は、ストレージ VM 内のフローティング IP の LIF 移行をサポートするために必要です。iSCSI LIF である必要はありませんが、ノード間で移行するように構成することはできません。
- ``-service-policy default-data-block`` IP アドレスがノード間で移行されないことを示します。
- `private_ip` は、`cvo_node2` の `eth0 (e0a)` 上の未使用のセカンダリプライベート IP アドレスです。

6. 1 つ以上のアグリゲートをストレージ VM に割り当てます。

```
vserver add-aggregates -vserver svm_2 -aggregates aggr1,aggr2
```

ストレージ VM にボリュームを作成する前に、新しいストレージ VM が少なくとも 1 つのアグリゲートにアクセスする必要があるため、この手順は必須です。

7. Cloud Volumes ONTAP 9.11.1 以降を実行している場合は、ストレージ VM のネットワーク サービス ポリシーを変更します。

Cloud Volumes ONTAP がアウトバウンド管理接続に iSCSI LIF を使用できるようにするため、サービスを変更する必要があります。

```

network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service data-fpolicy-client
network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service management-ad-client
network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service management-dns-client
network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service management-ldap-client
network interface service-policy remove-service -vserver <svm-name>
-policy default-data-files -service management-nis-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service data-fpolicy-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service management-ad-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service management-dns-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service management-ldap-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-blocks -service management-nis-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service data-fpolicy-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service management-ad-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service management-dns-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service management-ldap-client
network interface service-policy add-service -vserver <svm-name> -policy
default-data-iscsi -service management-nis-client

```

Azure でCloud Volumes ONTAPのデータサービス ストレージ VM を管理する

ストレージ VM は、ONTAP内で実行され、クライアントにストレージおよびデータ サービスを提供する仮想マシンです。以前は「SVM」または「Vserver」と呼んでいました。Cloud Volumes ONTAP はデフォルトで 1つのストレージ VM で構成されていますが、Azure でCloud Volumes ONTAP を実行するときに追加のストレージ VM を作成できます。

Azure で追加のデータ サービス ストレージ VM を作成および管理するには、API を使用する必要があります。これは、API がストレージ VM を作成し、必要なネットワーク インターフェイスを構成するプロセスを自動化するためです。ストレージ VM を作成するときに、NetApp Consoleは必要な LIF サービスと、ストレージ VM からの送信 SMB/CIFS 通信に必要な iSCSI LIF を構成します。

Cloud Volumes ONTAP API呼び出しの実行については、以下を参照してください。 ["最初のAPI呼び出し"](#)。

サポートされるストレージVMの数

Cloud Volumes ONTAP 9.9.0 以降では、ライセンスに基づいて、特定の構成で複数のストレージ VM がサポートされるようになりました。参照 ["Cloud Volumes ONTAPリリースノート"](#)お使いのCloud Volumes ONTAPのバージョンでサポートされているストレージ VM の数を確認します。

Cloud Volumes ONTAP 9.9.0 より前のすべてのバージョンでは、災害復旧に使用される 1 つのデータ提供ストレージ VM と 1 つの宛先ストレージ VM がサポートされます。ソースストレージ VM に障害が発生した場合、データ アクセス用に宛先ストレージ VM をアクティブ化できます。

ストレージVMを作成する

構成とライセンスの種類に応じて、NetApp ConsoleのAPIを使用して、単一ノードシステムまたは高可用性 (HA) 構成で複数のストレージVMを作成できます。

タスク概要

APIを使用してストレージVMを作成すると、必要なネットワークインターフェースの設定とともに、コンソールは `default-data-files` NAS データ LIF から次のサービスを削除し、アウトバウンド管理接続に使用される iSCSI データ LIF に追加することで、データ ストレージ VM のポリシーを変更します。

- data-fpolicy-client
- management-ad-client
- management-dns-client
- management-ldap-client
- management-nis-client

開始する前に

コンソール エージェントには、Cloud Volumes ONTAPのストレージ VM を作成するための特定の権限が必要です。必要な権限は以下に記載されています ["NetAppが提供するポリシー"](#)。

単一ノードシステム

次の API 呼び出しを使用して、単一ノード システムにストレージ VM を作成します。

POST /azure/vsa/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm

リクエスト本文に次のパラメータを含めます。

```
{ "svmName": "myNewSvm1"  
  "svmPassword": "optional, the API takes the cluster password if not  
provided"  
  "mgmtLif": "optional, to create an additional management LIF, if you  
want to use the storage VM for management purposes"}
```

HAペア

HA ペア上にストレージ VM を作成するには、次の API 呼び出しを使用します。

```
POST /azure/ha/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm
```

リクエスト本文に次のパラメータを含めます。

```
{ "svmName": "NewSvmName"
  "svmPassword": "optional value, the API takes the cluster password if
not provided"
  "mgmtLif": "optional value, to create an additional management LIF, if
you want to use the storage VM for management purposes"}
```

シングルノードシステムとHAペア上のストレージVMを管理する

API を使用すると、単一ノード構成と HA 構成の両方でストレージ VM の名前を変更したり、削除したりできます。

開始する前に

コンソール エージェントには、Cloud Volumes ONTAPのストレージ VM を管理するために特定の権限が必要です。必要な権限は以下に記載されています ["NetAppが提供するポリシー"](#)。

ストレージVMの名前を変更する

ストレージ VM の名前を変更するには、既存のストレージ VM と新しいストレージ VM の名前をパラメーターとして指定する必要があります。

手順

- 単一ノード システム上のストレージ VM の名前を変更するには、次の API 呼び出しを使用します：

```
PUT /azure/vsa/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm
```

リクエスト本文に次のパラメータを含めます。

```
{
  "svmNewName": "NewSvmName",
  "svmName": "OldSvmName"
}
```

- HA ペア上のストレージ VM の名前を変更するには、次の API 呼び出しを使用します。

```
PUT /azure/ha/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm
```

リクエスト本文に次のパラメータを含めます。

```
{
  "svmNewName": "NewSvmName",
  "svmName": "OldSvmName"
}
```

ストレージVMを削除する

単一ノードまたは HA 構成では、アクティブなボリュームがない場合、ストレージ VM を削除できます。

手順

- 単一ノード システム上のストレージ VM を削除するには、次の API 呼び出しを使用します：

```
DELETE /azure/vsa/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm/{svmName}
```

- HA ペア上のストレージ VM を削除するには、次の API 呼び出しを使用します。

```
DELETE /azure/ha/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm/{svmName}
```

関連情報

- ["APIを使用する準備"](#)
- ["Cloud Volumes ONTAPワークフロー"](#)
- ["必要な識別子を取得する"](#)
- ["NetApp ConsoleのREST APIを使用する"](#)

Google Cloud でCloud Volumes ONTAPのデータ提供ストレージ VM を管理する

ストレージ VM は、ONTAP内で実行され、クライアントにストレージおよびデータ サービスを提供する仮想マシンです。以前は「SVM」または「Vserver」と呼んでいました。Cloud Volumes ONTAPはデフォルトで 1 つのストレージ VM で構成されていますが、一部の構成では追加のストレージ VM がサポートされます。

Google Cloud で追加のデータ提供ストレージ VM を作成して管理するには、API を使用する必要があります。これは、API がストレージ VM を作成し、必要なネットワーク インターフェイスを構成するプロセスを自動化するためです。ストレージ VM を作成するときに、NetApp Consoleは必要な LIF サービスと、ストレージ VM からの送信 SMB/CIFS 通信に必要な iSCSI LIF を構成します。

Cloud Volumes ONTAP API呼び出しの実行については、以下を参照してください。 ["最初のAPI呼び出し"](#)。

サポートされるストレージVMの数

Cloud Volumes ONTAP 9.11.1 以降では、ライセンスに基づいて、特定の構成で複数のストレージ VM がサポートされるようになりました。参照 ["Cloud Volumes ONTAPリリースノート"](#) お使いのCloud Volumes ONTAP のバージョンでサポートされているストレージ VM の数を確認します。

Cloud Volumes ONTAP 9.11.1 より前のすべてのバージョンでは、災害復旧に使用される 1 つのデータ提供ストレージ VM と 1 つの宛先ストレージ VM がサポートされます。ソース ストレージ VM に障害が発生した場合、データ アクセス用に宛先ストレージ VM をアクティブ化できます。

ストレージVMを作成する

構成とライセンスの種類に基づいて、APIを使用して、単一ノードシステムまたは高可用性（HA）構成で複数のストレージVMを作成できます。

タスク概要

APIを使用してストレージVMを作成すると、必要なネットワークインターフェースの設定とともに、コンソールは `default-data-files` NAS データ LIF から次のサービスを削除し、アウトバウンド管理接続に使用される iSCSI データ LIF に追加することで、データ ストレージ VM のポリシーを変更します。

- data-fpolicy-client
- management-ad-client
- management-dns-client
- management-ldap-client
- management-nis-client

開始する前に

コンソール エージェントには、Cloud Volumes ONTAP HA ペアのストレージ VM を作成するための特定の権限が必要です。必要な権限は以下に記載されています ["NetAppが提供するポリシー"](#)。

単一ノードシステム

次の API 呼び出しを使用して、単一ノード システムにストレージ VM を作成します。

```
POST /gcp/vsa/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm
```

リクエスト本文に次のパラメータを含めます。

```
{ "svmName": "NewSvmName"
  "svmPassword": "optional value, the API takes the cluster password if
not provided"
  "mgmtLif": "optional value, to create an additional management LIF, if
you want to use the storage VM for management purposes"}
```

HAペア

HA ペア上にストレージ VM を作成するには、次の API 呼び出しを使用します。

```
POST /gcp/ha/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm/
```

リクエスト本文に次のパラメータを含めます。

```
{ "svmName": "NewSvmName"
  "svmPassword": "optional value, the API takes the cluster password if
not provided"
}
```

ストレージVMの管理

APIを使用すると、単一ノード構成と HA 構成の両方でストレージ VM の名前を変更したり、削除したりできます。

開始する前に

コンソール エージェントには、Cloud Volumes ONTAP HA ペアのストレージ VM を管理するために特定の権限が必要です。必要な権限は以下に記載されています ["NetAppが提供するポリシー"](#)。

ストレージVMの名前を変更する

ストレージ VM の名前を変更するには、既存のストレージ VM と新しいストレージ VM の名前をパラメーターとして指定する必要があります。

手順

- 単一ノード システム上のストレージ VM の名前を変更するには、次の API 呼び出しを使用します：

```
PUT /gcp/vsa/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm
```

リクエスト本文に次のパラメータを含めます。

```
{
  "svmNewName": "NewSvmName",
  "svmName": "OldSvmName"
}
```

- HA ペア上のストレージ VM の名前を変更するには、次の API 呼び出しを使用します。

```
PUT /gcp/ha/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm
```

リクエスト本文に次のパラメータを含めます。

```
{
  "svmNewName": "NewSvmName",
  "svmName": "OldSvmName"
}
```

ストレージVMを削除する

単一ノードまたは HA 構成では、アクティブなボリュームがない場合、ストレージ VM を削除できます。

手順

- 単一ノード システム上のストレージ VM を削除するには、次の API 呼び出しを使用します：

```
DELETE /gcp/vsa/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm/{svmName}
```

- HA ペア上のストレージ VM を削除するには、次の API 呼び出しを使用します。

```
DELETE /gcp/ha/working-environments/{workingEnvironmentId}/svm/{svmName}
```

関連情報

- ["APIを使用する準備"](#)
- ["Cloud Volumes ONTAPワークフロー"](#)
- ["必要な識別子を取得する"](#)
- ["NetApp ConsoleのREST APIを使用する"](#)

Cloud Volumes ONTAPのストレージ VM 災害復旧を設定する

NetApp Consoleは、ストレージ VM (SVM) 災害復旧のセットアップやオーケストレーションのサポートを提供しません。これらのタスクを実行するには、ONTAP System Manager またはONTAP CLI を使用します。

2つのCloud Volumes ONTAPシステム間でSnapMirror SVMレプリケーションを設定する場合、レプリケーションは2つのHAペアシステム間または2つのシングルノードシステム間で実行する必要があります。HAペアとシングルノードシステム間でSnapMirror SVMレプリケーションを設定することはできません。

ONTAP CLI の手順については、次のドキュメントを参照してください。

- ["SVM Disaster Recovery Preparation Express Guide"](#)
- ["SVM Disaster Recovery Express Guide"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。